

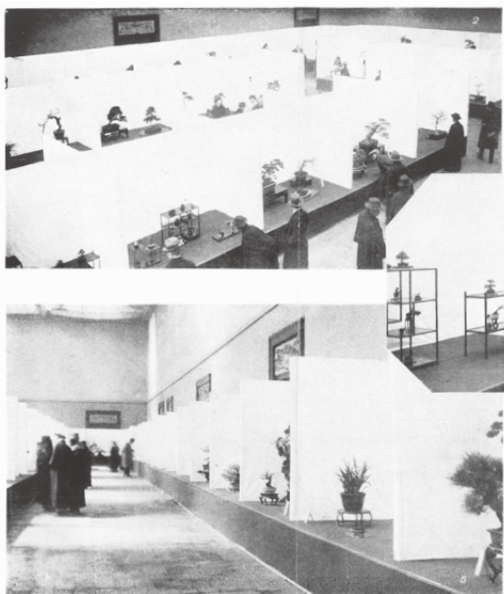
2月

資料紹介

## 『国風盆栽展全写真帖』（第1回国風盆栽展図録）

当館では、記念すべき第100回展を迎える国風盆栽展の開催にあわせて、企画展示室において同展に係る資料を2月18日（水）までコーナー展示しています。その中から、第1回展の様子を収めた図録である『国風盆栽展全写真帖』（以下、写真帖）を紹介します。

第1回展は、東京上野の東京府美術館（現 東京都美術館）において昭和9年



展示風景（『国風盆栽展全写真帖』より）

（1934）3月17日から23日まで開催されました。主催した「叢会（くさむらかい）」は、月刊の盆栽専門誌『盆栽』の編集者を務めていた小林憲雄（1889～1972）が主宰していた同誌の出版事業を担う組織です。小林は自身が編集者に就任した大正11年（1922）以降、同誌上に論評を展開し、盆栽の芸術性の向上を目指す盆栽芸術運動と呼ぶべき潮流を牽引しました。第1回展の開催はこの努力が実を結んだものです。

写真帖の巻頭には、第1回展当日に撮影された東京府美術館の正面写真が掲載され、その下にある一文には「美術館に於ける最初の展覧会なり」とあり、東京府美術館での開催が実現したことに対する感慨がにじみ出ています。

大正15年（1926）に日本初の公立美術館として誕生した東京府美術館は、各種美術団体による展覧会会場として利用されてきました。なかでも政府が開設した帝展（帝国美術院展覧会、日本美術



『国風盆栽展全写真帖』

表紙

展覧会の前身）は権威ある最高峰の美術展に位置付けられ、帝展とその会場たる東京府美術館は、芸術や美術を志す人びとにとつてあこがれの殿堂でした。同館における盆栽展の開催はまさに盆栽の芸術性が評価された証であり、それまでの料亭や公園を会場とした盆栽陳列会とは一線を画すものであったのです。

写真帖の前半には、一席ごとに盆栽の写真が収録され、後半には小林による解説が付されています。巻末に挿入された会場の全景写真を見ると、長い展示台を布で覆い、背景を立て、衝立を設けて一席ごとの区画を作り、整然と盆栽を陳列している様子がわかります。このように盆栽を「作品」として鑑賞させる展示方法も帝展を意識したものであったようです。

第100回国風盆栽展を鑑賞した後は、当館において国風盆栽展の誕生にかかる貴重な資料をぜひご覧ください。

（当館主査 菅原千華）